

Keynote speech 專題演講 1 Choan-tê ián-káng

王明理

王育德博士家屬代表

皆様おはようございます。今日をご参加下さいまして有難うございます。

特に台北からお越し下さいました来賓の皆様、日本からお越しの友人の皆様有難うございます。

王育德の生誕百年記念シンポジウムを開いて頂いて、心から感謝致します。

今年は節目の年です。台南市も 400 年という節目の年ですし、父は生誕百年。

昨日、父と母と姉の遺骨を分骨ですが、法華寺にある王家の霊塔に納骨しました。ここにいらっしゃる方々の多くの方にもご列席頂きまして、感謝しております。

父と母と姉は三人とも台南生まれでしたが、日本で亡くなりました。父は 25 歳で台南を出て、帰ってくる事ができませんでしたので、実に 75 年ぶりの帰郷でした。やっと、両親や最愛の兄と一緒にすることができました。

母はもし、父の遺骨を台南に連れて帰るなら、自分が死んだ後に一緒にしてね、と言いましたので、昨年母が亡くなったので、一緒に連れて帰って来たのです。

1949 年に台湾を離れた人の百歳を記念するシンポジウムが故国で開かれることに、私は深い感動を覚えます。これは世界的に見ても珍しいことだと思います。

台南の皆様の温かい優しさがあってこそ感謝しています。

父は天国でとても光榮に思っているに違いありません。

私のツァウニータイの台湾語はお聞き苦しいので、ここまでにして、この後は私の親友の、陳麗君教授に通訳をお願いします。

(以下、麗君さんに通訳をお願いする)

父は日本に亡命して自由を得て、台湾の爲に自分ができることをしようと心に決めたのです。25歳の不法滞在者である青年が持つには重たすぎる覚悟でした。

それから61歳で亡くなるまでの36年間、台湾語の研究、台湾語教育、台湾の歴史の執筆、台湾独立運動、台湾人元日本兵士の補償請求運動、台湾文学の研究、そのどれにも父は全力で取り組みました。

阿爸離開臺灣重新得著的自由，決定用來ùì 台灣盡力。對一個25歲非法居留ê 青年人來講，是過頭重 ê 重擔。到61歲過身，這36冬來不管是台語研究、台語教育、寫台灣歷史、台灣獨立運動、台灣人元日本兵士 ê 補償社會運動、研究台灣文學，每一項阿爸用規身軀 ê 氣力拚勢拍拚。

始めたら最後までやり通すのが父の性格でした。頑固なのは母の方がもっと上でしたが。

でも、どの仕事も簡単なものではありませんでした。

背負って歩くには重たいものばかりでした。それを父は幾つも幾つも、人に頼まれたわけでもないのに背負って歩きました。

徹頭徹尾做到底是阿爸 ê 性格！M̄-koh，若是 beh 講固執，阮母仔是有 koh 較贏面。
是講，無一項工課是簡單輕可--ê。
Phāiⁿ tī 身上 ê 重擔，jōa-ní-á 沈重，Mā 母是人要求伊--ê，伊家己願意去承擔--ê。

つらい事もあったに違いありません。例えば、ほとんどの台湾人は父に会うことさえ避けていました。あれほど愛していた故郷にいつまで経っても帰ることが出来ませんでした。

でも、父はいつも快活でニコニコしていて、つらい顔を見せませんでした。むしろ楽しそうに見えました。それは自分が正しいと信ずる道を歩いていたからでしょう。

Mā 有艱苦 ê 時陣。譬喩講，袂少台灣人會閃避 kah 阿爸見面。伊上思念 ê 故鄉，煞一直 bōe-tàng 轉來。

母過，阿爸攏笑微微，毋捌予人看著伊 ê 艱苦面，顛倒活得真快活。我想彼是因爲伊相信家己行 ê 路是正確--ê。

宮沢賢治の言葉にこういうのがあります。

「なにが幸せかわからないです。本当にどんなつらいことでもそれが正しい道を進む中のできごとなら峠の上り下りも みんなほんとうの幸福にちかづく一足ずつですから」

宮沢賢治有一句話按呢講。

「幸福是啥物無人知影。不管是佻艱難 ê 代誌，只要 ē-sái 行 tī 正確 ê 路 nih，無論是上崎落崎過程佻爾辛苦，lóng 會 hō 咱 koh 較一步倚近真正 ê 幸福！」

父の行ったことはどれも当時の台湾でできないことばかりでした。

でも、父の業績は、本当は特別なものではありません。

もし、戦後の台湾に自由があって思うように研究や活動ができたのなら、誰かが手掛けたはずの普通のことなのです。

だから、父の功績は、台湾で一端途絶えてしまった台湾に関する研究や活動の火を消さないように海外で灯し続けたことだと思います。

阿爸所做 ê 每項代誌，tī 當時 ê 台灣無一款有法度做。毋過，阿爸 ê 事蹟，窮實 mā 毋是遐爾特別。

戰後若是自由台灣，準講所有 ê 人 ē-tàng 做家己想 beh 做 ê 研究活動，是啥物人 lóng 會做 ê 普通事工。我認爲阿爸 ê 功勞是 tī 海外拚勢，hō 台灣這片 hōng 禁聲 ê 土地，hō 台灣研究、運動 ê 這 pha 火繼續予 tòh。

最初に手掛けたのは台湾語の研究でした。

それには二つの方向性がありました。一つは消えてしまうかもしれない台湾語を言語学の面から研究し、そのアイデンティティを科学的に明らかにすること。もう一つは再び台湾語を使える社会になった時に、皆が読み書きしやすい表記法を考案することでした。

阿爸代先做 ê 是台語研究。有兩個方向，一項是對語言學 ê 角度研究有可能 teh-beh 消失 ê 台語，用科學 ê 法度證明伊 ê 身份認同。另外一項是假使有一工 ē-tàng 使用台語 ê 社會世代來臨，逐家就會得有好讀好寫 ê 文字通表記。

父は独自の表記法を考案しました。でも、その苦勞して作った王式表記法を捨てて、すでに多くの人が使っている教会ローマ字を主体にするべきだと考え直しました。つまり、

自分の研究や名声のためではなく、使う人の爲を一番に考えたのです。それは私が一番好きな父の特徴です。

阿爸開發一套表記，尾仔伊煞決意放 sak 苦心思案 ê 王式表記，認爲應該愛用已經有濟濟使用者 ê 教羅爲主。就是講，伊所爲--ê 毋是家己 ê 研究抑是名聲，是爲著使用者。這就是我上愛 ê 爸爸 ê 特質。

台湾獨立運動についても同じことが言えます。父は本当は闘争や政治的な活動はしなくてもいいならしたくなかったはずです。

でも、台湾人が台湾で自由に暮らせるようにしたかった。二度と、育霖さんのように理由もなく命を奪われるようなことが起きないようにしたかった。その爲には無理をしても台湾の民主化運動をせざるを得なかった。

台灣獨立運動 mā 是全款。阿爸若是會當免做鬥争抑是政治活動，伊應該 mā 無想 beh 做。

毋過，伊愛台灣人 ē-tàng 自由活 tī 台灣。勿有人親像育霖兄按呢無值代就 hōng 奪走性命 ê 代誌 koh 發生。Ūi 著這個理由，一定著愛從事台灣民主化運動。

時々父に訊く人がいました。

「王先生、台湾が独立したら大統領になるのですね」と。父は即座に答えたものです。

「いえ、台湾が独立したら、政治にはタッチしません」と。

全く政治的野心のない境地で政治運動をやっていたのです。これは父と共に活動していた台湾独立聯盟の同志たちも同じでした。皆、自分の爲ではなく、純粹に台湾の爲に人生を捧げたのです。

Tú 開始，定定有人問阿爸。

「王先生，台灣若獨立你 tō 做總統 lah。」阿爸 liâm-mi 應講：「無 noh！台灣若獨立，我無 beh koh bak 政治！」

這是一款完全無政治野心 leh 做政治運動 ê 心境。這款心境 kah 阮阿爸做伙做運動 ê 台灣獨立聯盟 ê 有志 mā 全款。逐家攏毋是爲著家己，純粹爲台灣奉獻家己 ê 人生。

台湾人元日本兵士の補償請求運動は父が人生の最期の 10 年間を捧げた運動でした。

戦後 30 年も経った頃にインドネシアで台湾人元日本兵士が発見されたのがきっかけでした。父はこの気の毒な兵士の他にも多くの悲運な台湾人がいることに思い至り、可哀そうでいてもたってもいられなくなったのです。

「台湾人元日本兵の補償要求運動」は阿爸奉獻人生最後 ê 十冬 ê 運動。

起因は戦後経過 30 冬、台湾人日本兵 tī 印尼 hōng 發現。阿爸知影這個軍伙以外 koh 有濟濟台湾人（10 外萬）遇著這款悲慘 ê 命運，毋甘 kah 袂食袂睏。

父がはじめた活動は多くの日本人の協力を得て、結果として 12 年後の 1987 年、日本の国会でそのための法律が制定されるに至りました。

台湾人戦死傷者とその遺族に一人 200 万円の弔慰金を支払うことが決まったのです。国籍や外交関係がないことを乗り越えての奇跡的なできごとでした。この件で日本政府は 2 万 8 千人に総計 560 億円以上を支払いました。

阿爸發起 ê 運動得著濟濟日本人 ê 支援，結局 tī 12 冬後 1987 年日本國會因此制訂法律，決議補償台湾人因為參戰死傷 ê 人 kah 遺族一個人 200 萬。會當講是克服無國籍 mā 無外交 ê 奇蹟。因為 án-ne 日本開國家預算總額 562 億日票來補償總計 2 萬 8 千个臺灣人。

この件は日本でも珍しく成功した市民運動の一つですし、戦後の日台関係において、特記すべき出来事です。2020 年に今日もいらしている陳鈺琪さんが優れた修士論文を発表してくれましたが、なぜか台湾で憶えている人が少ないのです。私ももっと発信していくつもりですが、是非、台湾の歴史としてしっかり明記して頂きたいと思っています。

這個事件，tī 日本 mā 算是眞罕見會當成功 ê 一項公民運動，是戰後台日關係當中值得記錄 ê 歷史。有收 tī 2020 年陳鈺琪發表優秀 ê 碩士論文內底，今仔日伊 mā tī 現場。毋過，台灣知影這件 ê 人眞少。我按算加公開宣傳，希望會當 kā 記入去台灣歷史 ê 一頁。

私は亡命者の娘として日本で生まれ、45 歳で初めて台湾の地を踏みました。でも、私にとって、台湾はやはり特別な故郷です。

民主的な社会になり台湾人が政治を行っている今の台湾を父はどんなに喜んでいるでしょう。でも、まだ課題は残っています。いつか台湾が国際社会に国として認められる日が来るようにと願っています。私も皆様と一緒に微力を尽くしたいと思っています。

我成做亡命者 ê cha 某团出世 tī 日本，45 歲第一 táu 跣踏台湾土地。台湾對我

來講，mā 是真特別 ê 故鄉。

現此時民主社會，台灣人執政 ê 台灣，阿父母知有佻爾仔歡喜。毋過，閣有猶未完成 ê 宿題。向望台灣會當得著國際社會認同成做一個國家。我 beh 盡我有限 ê 能力 kah 在座 ê 各位做伙拍拚。

最後になりましたが、私が10歳の時に父がくれた手紙があります。それを読んで終わりにしたいと思います。

1965年1月26日の手紙です。

最後，我 beh 讀阿爸 tī 我 10 歲彼冬，寫 hō 我 ê 一張批，成做演講 ê 結尾。1965 年 1 月 26 號 ê 批。

めりちゃん

お手紙ありがとう。

パパのおたん生日はめりちゃんが一番よくおぼえてくれていました。この土曜日ですね。

パパは小さいとき体がよわくて、早死にするのではないかと自分でも思っていました。

大きくなってからは色々と危険な目にあいました。それがふしぎに元気で四十一歳のたん生日を迎えるようになったとは、何とありがたいことでしょう。パパはふつうの人より多くの仕事をしてきましたので、いつでもゆかいな気持ちでおります。一日生きのびれば、それだけでも世の中のためになる仕事をしようと思います。パパは西部劇の英雄のようにピストルを早く撃つとか、大力があるとかじゃないけれども、ペンの力で乱暴ものをやっつけて弱いものを助けることができます。

パパのこの生きかたをわかってくださいね。

一月二十六日

パパ 王育徳

ご清聴ありがとうございました。

今日は長い一日ですが、どうぞよろしくお願ひ致します。 (14分)

明理 chiàng kā 爸爸 ê 生日記了上清楚，是這禮拜六 hoⁿh！爸爸細漢 ê 時陣身體無好，連家己 to 叫是家己會真早死。講起來 mā 真奇怪，大漢以後 tú 著真濟危險 ê 代誌，顛倒身體健康通過 41 歲生日，實在有影真感恩。爸爸做 ê 工課比一般人較濟，感覺真爽快。若是會當加活一日，就會當爲這個世間 koh 加做一寡。爸爸 hām

西部電影的英雄無共，袂曉緊速拔銃、mā 毋是大力神。毋過，爸爸會當用筆 ê 力量拍倒惡勢橫霸，幫助需要幫助的人。向望你 ē-tàng 理解爸爸 ê 行事做人！

一月二十六日 爸爸 王育德

以上，多謝逐家。今仔日長長 ê 一工，請勞力、指教！

Chit-ê lùn-bûn kan-tan hân-tiān tī Ông lōk-tek gián-thó-hōe sù-iōng.
本論文僅限在王育德研討會使用，未經作者同意不得外傳。